

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891600039		
法人名	特定非営利活動法人 淡路島シャロームの会		
事業所名	グループホーム くるま花水木		
所在地	兵庫県淡路市久留麻236		
自己評価作成日	平成22年6月21日	評価結果市町村受理日	2010年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成22年7月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 本人の昔からの趣味や楽しみを把握して誘い出し、本人と楽しむ機会をつくっている(ピアノ、唄、お茶、習字、編み物、麻雀等)。
2. 家族や知人にたびたびの訪問をいただいている。
・以前よりも来る度に表情が良くなり落ち着いてくるのがわかり、喜ばれている家族が多い。
・昔、入居者の方が在宅時に関係されていた方が、たまたまホームの訪問された際、入居者の方の穏やかな表情にびっくりされる。
3. 近くの菜園で採れた野菜等を取り入れ、手作りの料理を入居者とともに作っている。
4. 海と山の自然に囲まれており、立地条件が良い。

事業所は東浦総合事務所(旧東浦町役場)に隣接する便利な場所にある。「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」のための地域の福祉ネットワーク作りの拠点となりつつある。理事長が近くに住んでおり、事業所も地域の一員として受け入れられ、利用者も日常的な外出時に知人に会ったり、自宅に帰ったりしている。音楽療法や園芸学校の協力による園芸療法等、利用者個々の思いを活かした対応ができており、事業所全体の質の向上につながっている。食事は新鮮な食材を使って利用者と共に調理し、法人の職員も一緒に食事を取るオープンで家族的な雰囲気が満ちていた。利用者は落ち着ける個室と、広々とした共有スペースで共同生活を送っている。来訪家族が多いので家族会を立ち上げ、家族同士の意見交換の場が設けられ、出された意見を運営に反映させる等の取り組みを通して更なる発展を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	①毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ②少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	①ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

Aユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に上げている	・勉強会では、法人の使命と事業所の理念について話し合い、理解を深めるようにしている。 ・会議では、事業所の各理念について掘り下げた話し合いをし、具体的なケアの統一を図っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域住民の一員として町内会に加入している。 ・地域の作業所が開いている出張喫茶を利用し、顔なじみの関係作りを行っている。 ・日常的な散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたりしている。お盆にはご家族や地域の人を招待して夏祭りを催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居の問合せの際や入居を検討されている家族さんからの相談に乗るなどして、事業所での実践経験を地域に活かせるようにしている。また、人材育成への貢献として実習生を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議では、事業所の活動状況や取り組み、課題などについて報告するとともに、会議のメンバーから率直な意見や要望をもらい、それを運営に活かすようにしている。 ・評価の結果明らかになった課題について報告し、その後の解決に向けた取り組みについても意見をもらうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営上の疑問点や利用者の権利擁護など、市の担当者との意見交換により、よりよい事業運営とサービスの向上に努めている。 ・事業所の通信や広報の配布、新聞・テレビの取材の報道などを通じて、利用者の暮らしぶりや活動状況を理解していただくようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・代表者及び全ての職員が、指定基準で禁止している身体拘束について理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。 ・玄関の施錠の問題を含めて、利用者の安全の確保と自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会では、高齢者虐待防止法や高齢者虐待の内容等の理解を図り、職員による虐待の防止に努めている。特に、暴言や侮辱、無視等の心理的虐待が見過ごされることがないように全員で気をつけている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、成年後見制度を利用していたり、対応が必要な利用者もいたりするが、ホーム長や介護支援専門員が対応しているため、すべての職員が理解できているわけではない。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、事業所の理念や運営方針、利用料金、起こりうるリスク、医療連携体制、重度化や看取り指針等について説明し、同意を得るようにしている。特に、事業所の対応可能な範囲について十分説明し、状態の変化等により契約解除に至る場合は、家族ともよく相談し、納得の得られるようにしている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段から利用者と積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望等を把握するように心がけている。出された意見や要望はきちんと受けとめ、日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。 ・ご家族には訪問時や電話等で意見や要望を伺い、ケアに反映させるようにしている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所の運営や重要な決定事項に関しては、全体会議や個別面談を通して現場の職員の意見や要望を十分に聴き、運営に活かしていくようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・普段から個々の職員の悩みやストレスに注意し、勤務中に一息つける休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。 ・代表者も朝の引継ぎや昼食時には現場に来て、職員や利用者とは過ごしたり、個々の職員の日ごろの努力や勤務状況などを把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13	2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の立場や経験等に応じて、いろいろな外部研修の機会を設け、研修内容は勉強会で報告してもらい、研修結果を全職員で共有できるようにしている。また、パートの職員も含めた事業所内研修を定期的開催している。 ・新任職員に対しては、最初の1週間はマンツーマンのOJT体制をとり、仕事の段取りや利用者との関わり方を学べるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他のグループホームでの実習や相互研修、研修の受け入れ等、他事業所との交流を通して、ともに学ぶ機会を設けている。 ・県単位の事業所団体や連絡協議会に加入し、同業者との交流や連携を図るようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面談では、生活状態を把握し、本人の求めていることや不安を理解するようにしている。 ・利用時には、本人の思いや気持ちを受け止め、安心して生活できる環境作りに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接の際、ご家族の立場に立って、困っていることや不安なことを伺い、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをするようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、本人やご家族の思い、状況を見極め、早急な対応が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行い、また場合によっては他のサービス機関につなげるなどの対応をしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者をより深く理解し、そのままを受け入れ、思いに寄り添いながら、安心した暮らしをサポートしていくことを基本に、利用者を支援される側に置かず、共に暮らす家族の一員として、また人生の先輩として接することを心がけている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の希望や思い、またご家族の要望を受け止めながら、本人の暮らしや様子等についての報告や相談を細かく行い、一緒に本人を支えるための協力関係を築けるようにしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・日々の会話の中などで、昔の思い出話を引き出したり、行きつけの美容院などに行ってもらったり、地域に暮らす馴染みの知人や友人に気楽に訪問してもらうなど、地域とのつながりを継続できるよう支援している。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・毎日のお茶や食事の時間を職員と一緒に楽しんだり、調理や食器の後片付けなどの作業分担を通して、利用者同士の支え合う力を引き出し、関係が円滑になるよう働きかけている。 ・レクリエーションや散歩など、みんなで楽しく過ごす時間を持ったり、個別に話を聴いたり声を掛けたりして、職員が調整役となって支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後もご家族に連絡をとったり、入院先に訪問させて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。把握が難しそうな場合は、言葉端や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の面談時に自宅を訪問し、本人やご家族からこれまでの生活歴等を細かく聴き、基本情報として整理し、職員で共有しながら日々の支援に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの日々の暮らしぶりを観察し、本人の状態を総合的に把握できるように努めている。体調の変化等があれば、ユニット会議等でその都度話し合い、対応している。 ・日々の生活から、個々のできることを見極め、普段の生活に活かしてもらうようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人には日頃のかかわりの中で、ご家族には面会時や電話等で、思いや意見を伺い反映させるようにしている。随時、職員と意見交換し、カンファレンスを行い対応するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・食事・水分摂取量、排泄、血圧体温等、その日の状態や気づきなどを個別ファイルに記録している。また、必要な事項に関しては職員ノートに書き込み、申し送り時や毎日の業務開始前に全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。 ・本人の意向に配慮しながら、買い物や外出の支援等、個々の満足度を高められるよう努力している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員とは、運営推進会議のメンバーとして、また行事への参加等を通して情報を交換し、協力関係を築いている。 ・利用者の権利擁護等、必要な場合には地域包括支援センターと協働し、対応している。 ・地域の団体やボランティアに定期的に慰問に訪れてもらっている。 		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族が希望するかかりつけ医の適切な医療を受けられるよう、通院や定期的な往診してもらっている。 ・体調の大きな変化がある場合は、かかりつけ医や希望する病院へご家族にも同行してもらい、診療結果を聞いてもらっている。 		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。 ・体調や表情の些細な変化等に気づいた場合には、ただちに看護師に報告し、適切な医療につなげている。 		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、本人に関する必要な情報を医療機関に提供するとともに、家族や医療機関と密接に連絡を取りながら、本人の速やかな退院に向けた支援を心がけている。 		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「重度化及び看取りに関する指針」を整備し、入居時に本人や家族に説明している。 ・ターミナルケアについては、本人や家族の意向をくみ取りながら、職員全体で話し合い、家族や医療関係者等と密接な連携を図りつつ、チームで支援する取り組みを行っている。 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の協力を得て、応急手当や心肺蘇生術の研修を定期的の実施し、職員が対応できるようにしている。 ・看護師の指導で、応急手当の勉強会を実施している。また、緊急時対応については、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。 		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方の訓練、消火設備の点検などを定期的の実施している。 ・夜間の火災の発生に備えて、近所の協力者を確保し、緊急応援体制を整備している。 		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・年長者として敬意を払い、援助が必要なきも、まずは本人の気持ちを大切に考えて、目立たずさりげない対応を心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするなど、職員の意識向上に向けて事業所全体で取り組んでいる。 ・利用者一人ひとりの守るべき個人情報、決して漏らさないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活の様々な場面において、利用者が意思表示し、自分で決定できるような声掛けを行ったり、意思表示ができない場合でも、表情や反応を見ながらできるだけ自分で決める場面をつくり、一人ひとりが納得しながら思いや希望に沿った生活ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の都合に利用者の生活を合わせるのではなく、その日の体調や様子をみながら、本人のペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝の着替えは、自分で選んだ好みの服を着てもらえるように、見守りや支援を行っている。理美容院は、本人の希望に合わせ、馴染みの店で希望に合わせたカットをしてもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みのメニューを取り入れながら献立を作っている。また、調理・盛りつけ・片づけ等も利用者の状況に合わせて一緒に行うようにしている。 ・職員と利用者が同じテーブルを囲んで一緒に食事と団欒を楽しめる家庭的な雰囲気作りを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分の摂取状況を毎日ケアチェック表に記録し、一人ひとりの状態を把握できるようにしている。また、本人の状況に合わせて食事の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアについては、利用者に合わせて声掛けや一部介助の支援を行い、嚥下障害による肺炎の防止などに努めている。 ・義歯は、夜間ははずし、洗浄液につけている。また、必要に応じて歯科受診や往診をもらっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表や利用者の日々の動き等を観察し、声掛けや誘導をすることにより、できるだけトイレで排泄できるように支援している。また、トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツやパット類を本人に合わせて使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・自然排便を促すために食事には植物繊維の多い物の摂取を心がけている。 ・毎日のラジオ体操や散歩、水分補給の徹底を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・日曜日を除いて、決まった時間帯に毎日入浴していただいている。順番や入浴時間、ご夫婦の方の入浴などに関しては、できる限り本人の希望に沿った入浴ができるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室以外にリビングや座敷、ソファ等で心地よい休息がとれるように配慮している。 ・個々の生活リズムに合わせてお昼寝をしたり、心地よく眠りにつけるように散歩や運動、日光浴など、日中の活動を促すように努めている。 ・寝つけない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりするなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々に処方されている薬に関しては、薬ファイルに綴じていき、職員全員がいつでも確認できるようにしている。また、服薬の変更があった場合は職員ノートに記入し、申し送り時に確認している。 ・誤薬を防止するため、与薬時は本人であることを声を出し確認し、また最後まで服用を見届けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・野菜切り、調理、味見、食器洗い、庭の水遣り、草引き、掃除、台拭きなど、利用者の経験や知恵を発揮してもらい、日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるように配慮している。 ・また、生け花や裁縫、ピアノの演奏、唄を歌ったりなど、いままでの生活の中で楽しみとされていた事は、継続して行って頂けるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は、できるだけ大勢で近くの神社等へ散歩に出かけることを日課にしている。 ・希望に応じて、近くのスーパーと一緒に買い物に出かけたり、地域の作業所が開いている出張喫茶に出かけるなど、外出の支援をしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・能力に応じて小遣い程度のお金を所持し、買い物時など自分で支払いをしたり、また、家族よりお金を預かり、事業所が管理して支払い時に手渡ししたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族や友人へ自由に電話できるよう支援している。手紙の投函などの要望があった場合も、ポストまで一緒に散歩するなどして対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合った飾り付けをしたり、心地よい音楽を流したり、庭の草花などを飾ったりして、季節感を採り入れ、ゆったり過ごせるように工夫している。 ・食事前には、おかずやご飯の炊ける匂いがして、家庭的な雰囲気が漂っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングではゆったりとした椅子やソファで、また座敷では堀り炬燵を囲んで気の合う利用者同士、ゆっくり過ごせるように工夫している。 ・一人になりたいときには、各自の居室でゆったりと過ごしてもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・いままで使っていた馴染みの家具や写真などの思い出の品や、仏壇などの大切なものを置き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・床は衝撃を和らげるクッションフロアを使用、生活空間の必要な場所には手すりを設置し、洗面台や蛇口の位置も使いやすい工夫をしている。 ・各部屋のドアに名札や写真を飾ったり、お手洗いには目印をつけたりして、混乱が起こらないように工夫している。 ・庭にベンチを置き、ひなたぼっこをしながらお茶を飲んだり、花や野菜の手入れ、収穫など、園芸療法のできる環境作りをしている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容